

## F<sub>1</sub> ガザニア ニューデイ・シリーズ

学名: *Gazania rigens*

種子粒数の目安: 1,000 粒/グラム

PGR(矮化剤)

プラグ生産の段階では不要

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.75mmhos/cm(1:2)を維持する

#### 播種

##### プラグトレイサイズ

288 穴から 406 穴までのサイズが適当。ヨーロッパで用いられる 264 穴トレイなども可能  
粗めのパーミキュライトで種子が隠れるくらいに覆土する。水分を十分維持して最良の発芽結果を得るようにする

#### ステージ 1 - 発芽日数は 3, 4 日

**温度:** 発芽温度は 21 から 22°C

**光条件:** 発芽には光は不要

**水分:** 発芽時は、水分レベルをやや湿潤の level 4 に維持

**湿度:** 子葉が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%

#### ステージ 2

**地温:** 昼間 20 から 22°C 夜間 16 から 17°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

**水分:** ステージ 2 においては、やや湿潤の level 4 から中庸の level 3 の間で維持する

**肥料:** リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC:0.7 mS/cm)で与える

#### ステージ 3

**地温:** 昼間 20 から 21°C 夜間 16 から 17°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

**水分:** さらに乾燥させた状態で、中庸の level 3 からやや乾燥の level 2 の間で維持する

**肥料:** 肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm (N))に上げる。培地の EC は 0.7 から 1.0mS/cm(1:2)、pH は 5.8 から 6.2 で維持する

#### ステージ 4

**地温:** 昼間 18 から 20°C 夜間 16°C

**光条件:** 温度が適正であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可

**水分:** ステージ 3 と同じ

**肥料:** ステージ 3 と同じ

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

10cm 前後の汎用ポット、または 15cm ほどのサイズが適当

#### 用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、初期養分は中庸とする

#### 温度

**昼間温度:** 18 から 21°C

**夜間温度:** 13 から 16°C

#### 照度

温度が適正な範囲内であればできるだけ高く維持する

#### 肥料

移植後 1 週で、硝酸態を主体とした、リン酸が少なくカリウムの多い肥料を用いて、レート 3(175 から 225ppm(N)、(1.2 から 1.5mS/cm))の濃度で開始。pH を 5.8 から 6.2、EC を 1.5 から 2.0mS/cm の適正域で維持管理する

#### かん水

適度なかん水を続ける。極端な過湿や乾燥に注意する

#### PGR(矮化剤)

必要であれば、株の色を出すために B ナインを 3,500ppm 与える。移植後 2, 3 週後に 1 回の処理で十分である

#### ピンチ

ピンチは不要である

## 平均的な生産期間

### 播種から移植まで:

288 穴では 5 週前後、406 穴の場合は約 4 週

### 移植から出荷まで:

コンテナサイズ	移植本数	移植から出荷(週数)	播種から出荷(週数)
9cm ポット、 カットバック	1	8-9	12-14
10.5cm ポット	1	8-9	12-14
15cm ポット	3	8-9	12-14

生産期間は明るさ(照度)に影響を受けると考えられる。たとえば照度レベルの低い地域や、光強度が弱い時期に生産されると、生産期間は数週(約 3 週)長くなる

### 病例等

**害虫:** スリップス、アブラムシ、ハダニ、ホワイトフライなどの監視を怠らない

**病気:** 育苗期間中の立枯病などに注意

### 定植場所や配置について

ニューデイ・シリーズは日あたりのよい場所を好みます

**草丈:** 20 から 25cm

**株張:** 15 から 20cm

**定植時の株間:** 15 から 20cm

### 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

**EC 値について:** EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。